

「南郷洗堰・アクア琵琶見学 と立木観音参拝」のご案内

「水のめぐみ館 アクア琵琶」は、琵琶湖の総合的な水管理が治水、利水及び環境の面から流域の発展に貢献していることや、瀬田川洗堰が滋賀県だけではなく下流の京都府や大阪府にとっても非常に重要な施設であることを広く理解してもらうことを目的として平成4年11月に設置されました。今回はアクア琵琶の見学に加え、南郷洗堰の役割や歴史も学びます。アクア琵琶では午後に国土交通省の担当官による概要説明、ビデオ鑑賞を予定していますが、午前中は瀬田川の右岸に弘法大師開設とされる立木観音（立木山安養寺）を参拝（厄除け）、ひなびた秋の参道と長い階段を楽しみます

日 時 2016年10月13日（木）

集 合 JR石山駅 10時（9時54分着の新快速があります）トイレ（JR駅改札内）
地上階の京阪バス案内所で 1日フリー券購入（600円）を済ませて、
バス1番乗場に集合してください。 10時9分発の大石行きに乗ります

行 程

10時09分発 京阪バス 石山駅前発 南郷バス停下車（南郷洗堰の次のバス停 230円）
10時25分～ 南郷バス停をスタート 田舎の参道をゆっくりのぼります（3kmほど）
11時20分 立木観音境内着
11時30分～ 講話 参拝後、休憩所にて弁当（お茶接待あり）
12時30分 階段を下り 立木観音前バス停へ
12時58分 京阪バスで立木観音前発、南郷バス停下車（朝と同じバス停へ戻る 260円）
13時20分 アクア琵琶 講義とビデオ鑑賞、館内見学
15時20分 アクア琵琶出発、南郷洗堰バス停へ（途中、旧の洗堰見学）
16時05分 南郷洗堰バス停発 JR石山駅 16時21分着 230円
（石山駅発のJR新快速は 28分、58分 発）
歩き足りない人は石山駅まで瀬田川の河畔を歩いても4km、1時間ほどです

持ち物

弁当・飲み物・観察用具・雨具・ストック（下り階段は800段ほどあります）など

- ※ 前日の19時過ぎのNHK天気予報で降水確率60%以上で中止します。
- ※ 大阪駅 9時05分発（野洲行き新快速） 石山駅 9時54分着です
もし列車遅延などで遅れた場合、10時24分発の京阪バスで追いかけてください。
- ※ 京阪電車利用で参加される方も、京阪バスの1番バス停で合流できます。
ご希望の方はその旨をお知らせください。
- ※ 京阪バス1日フリー券600円がお得。バス乗り場の京阪バス案内所で購入できます。
ピタパ、イコカなど利用可能ですが、都度だと3回乗車予定で合計720円になります。
- ※ アクア琵琶は無料です。
- ※ 立木観音参拝はお布施要（森海科で用意、前野さんよろしくお願いします）

当日幹事： 里・川担当グループ

南郷洗堰、アクア琵琶見学と立木観音参拝 報告書

日時：2016年10月13日

場所：JR石山 10時

参加人数：11名（浅野、石原、甲斐、金高、坂根、藤本、前窪、万井、奎三、山下、倭）

前の週のおつかれか？ 今回出席人数は少なかったですが、少数精鋭、和気あいあいと出発



京阪バスにて南郷バス停で下車し、10時30分に立木観音めざして、ゆるやかな登りの参道を誰はばかりことなく大声でしゃべりながら約1時間ゆっくり歩きました。

立木観音は昨年1200年を迎えたそうで、弘法大師が弘仁6年に建立したと伝えられている。

大師が光る木を見つけ、瀬田川を鹿にのって

渡ったというありがたい講話を拝聴し、めいめいなにやら願い事を鐘の音に託し参拝終了。

昼食後12時30分に800段の階段を脱兎のごとく駆け下り（実際はこけないようにしっかり手すりを持ち、ぼちぼち膝とふくらはぎがしくしく言い始めたころ）バス停に到着。朝と同じバス停で下車し、歩いて、瀬田川洗堰の橋を渡りアクア琵琶に到着した。“水のめぐみ館アクア琵琶”は平成4年に琵琶湖の総合的な水管理と瀬田川洗堰が琵琶湖を抱える滋賀県だけでなく、下流の京阪神地域にとっても大切であることを広く理解していただくために設立された。



琵琶湖は400数十万年前に伊賀で断層陥没運動によって生じ、そのご一旦消失するなどの変遷を経て、40万年前に現在の位置、大きさになったといわれています。面積は674㎡、滋賀県の1/6の大きさでもちろん日本では一番大きい湖です。流入する川は118本（支川を含めると498本）なのに流出する川は瀬田川1本のみ！しかもかつては川幅も細く水深も浅く、小さな島のようなものが点在、さらにすぐ横に大日山という低い山が存在するという地形だったために、湖岸地域では古来より度重なる浸水被害に悩まされてきました。因みに江戸時代では2年に1回大規模浸水が起こっていたという記録が残っています。古くは行基が、江戸時代では河村瑞賢や、藤本太郎兵衛が3代に亘って瀬田川の川幅拡張や、川浚えを行い洪水を防止しようと努力しましたが、その際下流域の人々が上流から大量の水が一度に流れたら今度はわれわれが洪水の被害をうけると反対して、治水事業は困難を極めました。やっと明治38年に、琵琶湖から流す水の量を調節して、淀川と琵琶湖の洪水防止と水位を保つために、南郷洗堰が設置されました。木製で、人力で開閉するために、全閉するのに丸2日要しました。昭和36年に10門の電動ゲートを持つ堰に改築され、平成4年にはバイパス水路が増設されて、琵琶湖の水位が低下しても正確な放水量の調節が可能になりました。－参考 当日の水位は、－26cmでした。季節や天候によって－30～＋30まで細かく調節しているとの事でした。

再びバスに乗車し、瀬田の唐橋を見学。すぐそばにある鳥居川水位観察所に立ち寄りました。この装置はびわこの水位の基準観測のためにオランダ人エッセルによって設置され、現在でも1日2回測定が行われています。その後4時過ぎに石山駅で解散。

文責：倭 写真：坂根 編集：浅野



（旧）南郷洗堰



（現）瀬田洗堰



「ようこそ 森と海の自然科さま」